

地域とのふれあいを大切にして



〈執筆者〉

垂水消防団 名谷分団

分団長 中谷 文男

「私たちが活動する名谷地区は、北は市営地下鉄名谷駅から、南は第2神明道路に至るまでの南北約4km、東西約2.5kmの範囲です。「名谷」と聞くと、市営地下鉄名谷駅の近辺を思い浮かべられる方がかなり多く、本来の名谷地域の知名度は、残念ながら乏しいのが実情です。しかし、ここ数年の間に明石海峡大橋に関連した自動車道が整備され、併せて開発が進む都市化の波により、名谷地域も確実に変わっています。

この名谷地区も阪神・淡路大震災から早くも13年を迎えようとしています。震災の折は、幸いにも被災家

屋やけが人も少なかったのですが、地震直後、テレビ、ラジオなどで流れてくる情報を知るたびに「消防団員として何かをしなければいけない」という焦りにも似た思いがしたことが記憶に残ります。この記憶が、現在の私たちの消防団活動の礎になっているような気がいたします。

この地域を預かる、私たち名谷分団は、総員25名の分団員で「地域の方々とふれあいを大切に」をモットーに、災害活動はもちろんのこと、さまざまな地域活動に従事しています。

私自身、今年初めて分団長として名谷分団を預かる身となり、半年が過ぎた今でも、先輩諸氏のご指導を仰ぎながら、消防団活動に励んでいます。年始の各



家庭訪問や、農業用水池の土手草焼却、文化財の消防訓練、地域開催の盆踊り、小中学校の各種行事の訪問と運営協力など、地元根付いた消防団活動により、地域の皆さんから気軽に「消防団さん、いつもご苦労さん!!」と声を掛けていただいています。私たちは、このような地域の方々のご理解とご協力をいただけることを、大変感謝しております。

数年前に発足した防災福祉コミュニティの活動支援では、消防署の地区担当者の皆さんとともに、防災リーダーとして防災器具の取り扱い指導、救急処置の講習会や訓練を実施するなど、日常生活に密着した防火防災指導を心掛けています。このような地域に根付いた活動を今後も続け、さらに活動範囲を広めて、より多くの方々とふれあいを大切にしていきたいと思っています。